

懐かしのメロディーを聴く

酒井 董美 ただよし



懐かしのメロディー
(YouTubeから)

いているのである。

それはともかく、YouTubeのおかげで、保存されているテレビ番組を視聴することが可能となり、タイムカプセルに乗って半世紀以上も前に戻ったような気分になる。パソコンの活用の一つのありかたとして読者にお勧めしたい。

筆者は初め童謡・唱歌に集中して聴いていたが、そのうちテレビ東京の「昭和歌謡大全集」とか、「懐かしのメロディーを聴く」の番組を見つけ、それに変えた。玉置宏や高橋圭三といった往年の名司会者が司会をしている。歌謡曲も第二次戦前では東海林太郎「国境の町」、霧島昇「誰か故郷を想わざる」「旅の夜風」、淡谷のり子「別れのブルース」、高峰三枝子「湖畔の宿」あたりであろうか。

そして第二次大戦後間もないころに流行った並木路子「リンゴの唄」の明るく可憐な歌に戦争の傷を癒やされたものである。まだテレビのないこの時代、筆者の中学生のころ流行った歌にことのほか懐かしさを感じる。岡晴夫「憧れのハワイ航路」、近江俊郎「湯の町エレジー」、竹山逸郎「異国の丘」、平野愛子「港が見える丘」がそのころ毎週ラジオで人気を独占していた。伊藤久男の「イヨマンテの夜」や灰田勝彦「アルプスの牧場」も忘れられない。このころは聴取者の投票の結果、高得点になった曲が毎週日曜日のたしか午後七時半ごろから一時間くらい放送されていた。「今週ほどの歌がトップになるのだろうか」とそれが楽しみで聴いていたものである。また江間章子作詞・中田喜直作曲「夏の思い出」(石井好子歌)や寺尾智沙作詞・田村しげる作曲「白い花の咲く頃」(岡本敦雄歌)の二曲はNHKのラジオ歌謡として特に印象に残っている。

戦後の歌姫として昭和時代に君臨した美空ひばりが現れたのもそのころである。彼女は筆者より二歳年下であるが、三十三年前の平成元年に五十二歳の若さで物故している。これらの人たちは画面で見れば、いずれも明るい笑顔と見事な歌唱力で生き生きと語り、歌っているのであるが、現実にはどなたも既に彼岸の彼方に去ってしまった。

こうしてYouTubeを開くことによって、そのころの家族のことや友人たちとの思い出があれこれと蘇り、懐かしさと共に人生の儚さをしみじみと感じさせられるのであるが、そのようなところにも、YouTubeの不思議な魅力があるといえる。

当分、パソコンでのYouTubeによる昔の放送番組は、筆者にとって手放せないものになつてしまったようである。

(元島根大学法文学部教授)